

令和6年度 第2回 小野申人といきいきトーク

と き 令和6年8月27日（火）18：30～20：00

ところ 協和公民館

テーマ 民生委員・児童委員さんを通して地域の状況や想いを聴く

出席者 市長、民生委員児童員7名、近藤福祉課長、宇野政策企画課長

（市長挨拶）

新しく民生委員さんになられた方のご意見をお伺いする中で、民生委員の仕事のあり方とか、何か気づきをごぞいましたら、遠慮なくおっしゃっていただきたい。

今後の参考にさせていただければと思いますので、忌憚のないご意見をいただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

（民生委員・児童委員になられた経緯）

- ・私から進んで民生委員になるとかは一切なかったけど、町内の役員の方が来て、1週間考えた末にお受けすることになった。愛着のある町なので、困っている方がおられたら、その方はどうされているかを把握したいという気持ちはある。
- ・民生委員は、町内会長が推薦することになっていて、前任が家庭の都合で降りるということで後任を探して歩かれたが、なかなか見つからないので該当者なしで報告しようと思ったが、町内会長と兼務で半年間はやろうと受けたので、積極的に手を挙げたわけではない。
- ・前任者の任期がきて辞めるので、誰かいないかと町内会長が頼みに来られて、受けた。

（活動の感想）

- ・あの人はあんな人だろうと思っていても、何かの拍子にそうでないとわかるようなこともあり、いろいろ会話をしてみないと人間はわからないというのは勉強になる。
- ・私は思うことは隠さず言うので、相手がそのまま受け取ってくればいいですけど、先入観で曲解されることもある。本当に思っていることを引き出すのは難しい。よっぽど信頼を築かないと、2年3年でそこまでいけるかどうかわからない。
- ・先輩の民生委員さんに分からないことを聞くと、事務的なことはすぐ教えてくれるが、心情的なこととかはお互い意見が違うから難しい。一緒に作業するなどいろんなことを教えてもらいながらやっていこうと思う。
- ・アプローチの仕方というか、掘り起こしていくのもなかなか難しいし、接触の仕方に非常に悩んでいます。民生委員も、カラーというか個性があり、その個性を、1つの統一した方向で固める必要はないと思うので、私なりにできることをさせていただくという姿勢は理解していただきたい。
- ・いろんな経験を持たれた民生委員の方や、これまでの仕事以外の異業種の方とも接触ができるところは良かったと思う。それに難病の方、高齢一人暮らしの方に接することで、自分自身が

新しいことをする機会もあり、人の幅が広がるとか、勉強になるというのはある。

- ・町内を回る中で、少子高齢化と核家族化で、地域の相互助け合いの低下や高齢単身者の増加に危惧している。この状態で次をお願いする自信がない。前任も町内会長を降りて、引き受け手がなく民生委員をされた。町内会の役員もなり手がおらず、近隣づきあいも希薄。
- ・訪問したときに、来てくれてありがとうって言うのは、やっぱり嬉しい。
- ・高齢化率が、75歳以上が30%、65歳以上は50%を超える。どこの地区も同じで地域の行事が成り立たない。見守りも、民生委員だけでは目が届かない。
- ・民生委員がハードな仕事、責任重大な仕事という誤解があると思っている。できる範囲でできることをすればいいと思わないと気が重い。誤解を解いて、民生委員をやってみようかと思うような雰囲気づくりも必要と感じる。
- ・小さな町で、何でも私は知っているような気でいたけど、知らなかったことが役をいただいてわかった。8050問題など新聞で読んでいた問題が、このまちでもあることを実感した。地域を知らなかったのが、繋がりができたことで知れたことは良かった。
- ・いろんな方がいらっしゃるけど頼りにされるのは嬉しい。
- ・最近では家族葬がほとんどで、以前は組内で葬式の時に形式的にお手伝いとかしていたが今は全然ない。近所の方が亡くなっても全然わからない。
- ・外国人の方がおられるが、どんな人がどこにどれくらい住まれているのかということは全然わからないので不安がある。

(民生委員の業務)

- ・民生委員の定例会が月に1回、約1時間半から2時間あり、情報共有や、行事の説明や参加者の調整があるんですが、民生委員の地区の役員の方、会長、副会長、会計さんには相当ご苦労がある、仕事量があるなと思います。また、市役所からの調査依頼が多く、それをどの程度やるべきかという難しさを感じている。
- ・一応定期的な訪問はあるが、各民生委員の思いでちょっとずつ違うのではないかな。
- ・前任から1件ずつ紹介してもらいながら歩いて回って、翌月からは1人で訪問することになった。何ヶ月か経てばだんだん話ができ、長話もするようになった。草取りとか墓掃除、剪定の話、金銭的な話も出てくる。町内を歩いても人がおらず出会う人がほんとにいない。知っている家にはパッと行けるけど、知らない家はどうかと考えている。
- ・認知症のおばあちゃんから朝3時ごろ、うちに泥棒が入ったんで来てくれないとかいう電話があって、行ってみたら鍵も閉まっていて、どうしたんですかと聞いたら、妄想だった。
- ・今は行政のいろんなシステムとか制度もしっかりしているし、高齢者を見るセンターみたいなものもある。民生委員は専門機関へのつなぎ役というふうに私は理解していて、自分で解決できる部分もあるけど、専門機関に任せるという気持ちで活動している。システムや制度を使えば、民生委員の心配事はだいぶ減るんじゃないかと思う。
- ・母子や児童、障害者、高齢者に関することと守備範囲が広く、福祉のプロでないと激務だと思います。おせっかいおじさんやおばさんが適任と思うが、こうした人も少なくなってきていて、最近では個人情報保護意識の高まりもあって、敬遠される傾向にある。

- ・地域実情把握があるが、今の時代に家族何人とか生年月日をととも聞けるものじゃないのでアウトにしか把握できない。市に聞きに行ってもなかなか教えていただけない。もろもろの調査も難しくなってきたので、他の道を検討されればと思います。

その他ご意見

(空き家)

- ・病院、特養に行ったら空き家が増えて、防犯上の問題、草の問題があって、地域の人が世話をしないといけないけど、年寄りが多くてできない。

(サロン)

- ・いきいきサロンは情報収集の場としていいが、入院した、誰かが死んじゃったと聞いても、本当かどうか確認のしようがない。
- ・いきいきサロンの運営について、申請が難しいというか書類が面倒くさいみたいなので簡素化してほしいと聞いた。

(野焼き)

- ・家庭ごみを燃やしているところがある。環境問題以上に近所迷惑なので、環境整備課の方でアピールをしっかりと欲しい。

(安否確認)

- ・担当区域で、安否不明で緊急連絡先もわからないということが2件続けてあり、町内会長が何とかしないとけないというので緊急連絡先の把握を行った。町内会長のリーダーシップで、町内会に入っておられる8割の方が、緊急連絡先(内容的には名前、関係性、携帯番号)を書いてくれて、リストを作れた。非常に高齢化率が高くて一人暮らしの方が多い中で、安否確認に役立つようなことを町内会でやれたのは良かった。

(クーリングシェルター)

- ・今年の猛暑の中、電気代がかかるのでエアコンもなくパントー一丁でおられる方がいた。今年からクーリングシェルターが始まって、遠くても歩いて行くように言った。そういう住環境が悪い方には、いい取り組みだと思う。

(交通)

- ・河佐駅は、府中行きが朝6時23分に出発して、次7時27分。この次が16時8分、18時15分、20時27分。通学通勤の方のためだと思うが、昼一本だけでも走らせてもらいたい。久佐の人たちは電車がなくて困っている。
- ・公共交通の問題に加えて、無医地区という問題がある。救急車を呼んでも往復1時間かかり、命に関わる状況なので、全くお金を払わないというのではなく、予約制のナインタクシーみたいなものを走らせていただくなど考えてほしい。

(高校)

- ・上下高校がなくなったら、どんどん寂れていく町になっていくと想像できます。今の形、本校のままっていうのは難しくなると思うけど、学べる場を確保してほしい。